

VIII-3

Bortezomib 投与中に尿閉をきたした多発性骨髄腫の 4 例

○ 志村和穂¹、島崎千尋¹、大城宗生¹、古林勉¹、隄康彦¹、山下美穂子¹、内山人二¹、谷口享子¹、藤本佳子¹、清水大介¹、松本洋典¹、稲葉亨²、堀池重夫¹、谷脇雅史¹

京都府立医科大学 血液・腫瘍内科¹、臨床分子病態・検査医学²

【目的】 bortezomib は有用な骨髄腫治療薬剤であり、主となる用量制限毒性は末梢神経障害である。当科では bortezomib で治療した 16 例のうち 4 例で、神経因性膀胱による尿閉を認めたので報告する。【症例 1】 63 歳男性。2002 年 7 月に MM(IgG- κ , stage IIIA) と診断。2004 年 11 月 22 日より Dexa 併用で治療開始。2 コース目の day17 に尿閉を発症。【症例 2】 71 歳男性。2003 年 3 月に MM(IgA- λ , stage IIIA) と診断。2005 年 6 月 3 日より Dexa 併用で治療開始。2 コース目の day16 に尿閉を発症。【症例 3】 61 歳男性。1997 年 3 月に MM(IgG- κ , stage IIIA) と診断。2007 年 1 月 19 日より治療開始。2 コース目の day7 に尿閉発症。自然軽快後、減量して 3 コース目を行うも day8 に再度発症。その後軽快。【症例 4】 69 歳女性。2003 年 7 月に MM(BJP, stage IIIA, amyloidosis+) と診断。2007 年 7 月 17 日より Dexa 併用で治療開始。day14 に尿閉を発症したが、自然軽快。【考察】 尿閉は、bortezomib の投与開始 1 コース目 day14 から 2 コース目 day17 の早期に認められた。また、16 例中 7 例で 3 コース以上の bortezomib 治療を行っているが、3 コース目以降での尿閉発症は認めていない。16 例全例で VCR が、9 例で thalidomide が投与されていた。尿閉が不可逆性であった 2 例は thalidomide の投与歴があった。【結論】 尿閉の発症に関しては、特徴的な臨床的背景を認めなかった。